

問 災害時における避難場所の見直しについて、置戸市街地区においては拓殖住民センター・中央公民館・地域福祉センターの3ヶ所が避難場所に指定されておりましたが、全部が1階の建物であり上流で堤防決壊等の被害が出た場合は水害の避難場所としては適当ではないと思いますので、検討していただけないでしょうか。また、広報のありかた、避難の方法についてもお聞きます。

①高台や2階～3階の頑丈な建物における避難場所の確保

②避難勧告の広報車が出ていても、知らない、何を言っているのか解からないという声を多く聞きました。広報車の台数を増やすとか、住宅密集地ではスピードを落とすなり一時的に止まって広報するなど、住民に適切に伝わる広報のあり方を検討すべきと思います。

③先般の水害では、川向住民センターが指定されておらず、若松・新光・協生など川向地区の住民は、福祉センターまでかなりの距離があったので避難に苦勞をした様であります。避難の方法や足の確保について今後の検討課題と思います。

答 ①異常気象により大規模災害が多発していることから、国では、これまで想定してきた最大雨量の見直しを行いました。これを受け、置戸町においても浸水想定区域の見直しを行っているが、これまで置戸市街地区の多くの避難所は50cm以下の浸水想定でした。今回の見直しにより全部の避難所で最大雨量を想定した場合は、平屋建ての避難所は活用できなくなる。被害状況により指定する避難所は変わるが、1次避難所に指定した建物の浸水が50cmを超えると、1階から2階への避難、あるいは2階のある避難所や浸水が発生していない避難所への2次避難、さらには広域避難として、町内で被害が発生していない地区の避難所へ移動することになる。2階以上有する公共施設が少ないため、高台などへの避難所の検討も必要だが、当面の対応として、現在指定しているすべての避難所の活用を優先し、災害発生前の避難、災害発生時の避難など、状況に応じて適切な避難誘導が行えるよう努める。

②これまでの町のお知らせや今回の避難勧告のお知らせでも、広報車からの放送内容が分からない。あるいは、広報車に気づかなかつたとのことの意見をいただいている。また、先に

実施した勝山地区の自主防災訓練でも、止まって放送を行ったが、同様のご意見があった。夏場の窓を開けている時や屋外にいる方には有効な手段だが、雨や風が強くと窓を閉め切っている時は、広報車でののお知らせには限界があると感じている。8月の大雨の時の対応では自治会長さんのご協力をいただいて、自治会ごとに避難勧告のお知らせをしていただいた。来年度、防災無線のデジタル化を予定しており、自主防災組織や自治会を単位として戸別受信機を配置し、同様に連絡網でお知らせいただくよう予定している。また、広報車や防災スピーカーでの放送が確認できなかった場合を想定して、電話により放送内容を確認できるシステムも整備する予定。この他、昨年より運用を開始した「情報メールおけと」も情報を得る有効な手段であり、NHKテレビのデータ放送や避難に関しては民報も含め速報としてお知らせしており、有効に活用していただきたい。

③災害の発生状況に応じた避難場所や避難方法の検討をする。

問 緑川の河道整備について、今回の一連の台風による大雨災害により町内の小河川の氾濫も数多く見られましたが、緑川についても相当の水量となり、土砂や流木の散乱がひどい状況となっております。特に河川内における立木が一因の状況もあり、伐採を含めて整備をお願いします。

答 オホーツク総合振興局網走建設管理部は今年度に引き続き事業要望中とのこと。予算にめどがつけば今年度から着手したいとのこと。

問 町道拓殖勝山線沿いの側溝の補修と土砂上げをしてほしい。

答 直営で今後進めるが、天候により出来ない場合は来春実施する。

問 雪が降ったらすぐ流雪溝の利用ができるように会議の日程も前倒しを。

答 水利権関係で流雪溝の利用は12月1日からとなっており、ゲート設備のメンテナンスの時期、会議の時期を早めるようにする。

問 流雪溝沿いの人々の高齢化や空き家への対応は。
答 ボランティア、福祉除雪サービス、事業組合等を利用する方法もある。